

(様式5)

調査報告書

| | |
|---------|-------------------------|
| 訪問調査日 | 平成 20年 7月 10日 |
| 調査実施の時間 | 開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分 |

| | |
|-------------------|---------------------------|
| 訪問先事業所名 (都道府県) | グループホームたんぼぼの里 (鹿児島県) |
|-------------------|---------------------------|

外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を实践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を实践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|----------|---|
| 評価調査員の氏名 | 氏名 山下 賀子 氏名 福留 昭 |
| 事業所側対応者 | 職名 ホーム長 管理者 計画作成担当者 氏名 佃公恵 西まさ子 米山美千代 森迫キヨ子 ヒアリングを行った職員数 7名 |

| |
|---|
| <p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。 |
|---|

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 28日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|-----------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定第4670102690号 | | |
| 法人名 | 有限会社 ライフサポート | | |
| 事業所名 | グループホーム「たんぼぼの里」 | | |
| 所在地 | 鹿児島市下福元町6718番地 (電話) 099-210-8812 | | |
| 評価機関名 | NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 鹿児島市星ヶ峯4-2-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月10日 | 評価確定日 | 平成20年8月3日 |

【情報提供票より】 (平成20年 6月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|----------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 14年 4月 8日 |
| ユニット数 | 3 ユニット 利用定員数計 27 人 |
| 職員数 | 26 人 常勤 15人, 非常勤 11人, 常勤換算 23.3人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 木造 造り |
| | 2階建ての 1~2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------|----------------|---------|---|
| 家賃(平均月額) | 19,500 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有(円) 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,000 円 | |

(4) 利用者の概要 (H20年 6月 22日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 27名 | 男性 | 5名 | 女性 | 22名 |
| 要介護1 | 5名 | 要介護2 | 5名 | | |
| 要介護3 | 10名 | 要介護4 | 4名 | | |
| 要介護5 | 3名 | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 83.11歳 | 最低 | 66歳 | 最高 | 96歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------------|
| 協力医療機関名 | 敬愛クリニック、鹿児島生協病院、鹿児島日赤病院、永山歯科 |
|---------|------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

たんぼぼの里は「茎」「花」「綿毛」からなる3ユニットとなっている。開設当初より「地域の中でその人らしく安心して暮らし続ける」という理念を掲げている。花壇、菜園には季節の花や野菜が植えられ、中庭の芝生ではお茶会などができ、気軽に立ち寄れる明るいホームである。ホーム周辺は郊外の食堂街や大型ショッピングセンターもあり、入居者は日常的に買い物、外食、散歩も楽しんでいる。各ユニット毎に入居者個々の状態に合わせて、得意分野が発揮できるような取り組みを行い、生き甲斐がもてるような支援を目指している。年1回の一泊旅行には寝たきり状態であっても一緒に参加している。開設時より苦楽を共にしてきた入居者と職員の絆の深さがある。何事も入居者にできる方法を工夫しながら、実現しようとしている。この努力が入居者の笑顔に反映されている。

【重点項目への取組状況】

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回課題の、地域との付き合いを深め、災害対策や運営推進会議の充実化を図る為に、積極的に取り組み改善されている。重度化や終末期に向けての指針を定め同意書を作成し方針の共有化を図っている。市町村との連携については、ホームの活動状況を理解してもらい連携を更に深めたいとしている。 |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で評価に取り組み、自己の振り返りを行いながらサービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2ヶ月に1回行い、地域包括支援センター、町内会長、民生委員の方より情報をもったり、意見やアドバイスを受けながらホームの理解と協力を深め、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。 |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や家族会の場を利用し、家族が何でも話してもらえるよう積極的に声かけを行っている。出された意見は職員で話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。 |
| 重点項目 | ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の運動会や夏祭り、町内会の一斉清掃に参加したり、小中学生、専門学校生との交流やボランティアの受け入れを行っている。近所の方からの野菜の差し入れや地元商店街での買い物、外食も日常的に行われ、地域住民との交流の場を多く作っている。 |

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下 賀子 / 調査員 福留 昭

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「地域の中で、その人らしく、安心して暮らし続ける」という、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は重要事項説明書に明記すると共に各ユニット毎に掲示している。毎日の申し送りや月1回のミーティング時に唱和し、理解を深めながら日々のケアに反映するよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の運動会や夏祭り、町内会の一斉清掃に参加したり、小学生、中学生、専門学校生との交流やボランティアの受け入れを行いながら、地域の一員として交流を深め、活動している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み、自己の振り返りを行いながらサービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は2ヶ月に1回行い、時々入居者の参加もある。会議ではホームの活動内容や取り組み状況を報告すると共に、意見やアドバイスを受け、サービス向上に活かしている。 | | |

グループホームたんぽぽの里

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の生活保護課の担当者とは情報交換を行ったり、保健所の管理栄養士にアドバイスをもらったり、市の介護相談員の受け入れもしている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時に入居者の暮らしぶりや様子を報告している。ホーム便りは毎月各ユニット毎発行し、個人別に写真を載せたり、年に数回は入居者手作りの絵手紙も同封し家族に喜ばれている。金銭管理の報告も行っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や家族会の場を利用し、何でも話してもらえるよう雰囲気作りに留意し、声掛けを行っている。出された意見は職員で話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの関係作りを重視している。 退職時に各ユニット間のバランスを考慮した異動を行う場合や、入職時は入居者家族に報告し、信頼関係を築き、ダメージを防ぐ配慮をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は職員が交代で参加し、伝達講習を行っている。又、職員の段階に応じた研修を行ったり、月1回の内部研修等を通し、職員の資質の向上を図る取り組みをしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 「谷山地区グループホーム研修会」に毎月参加し、事例検討や意見交換を行ったり、他のグループホーム見学を行い、サービスの質の向上を目指している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望があった場合、本人、家族と一緒にホームを見学したり、2～3日の体験入所も受け入れている。本人が馴染むまでは家族の協力ももらいながら、面会や自宅迄の外出を繰り返して、安心して過ごせるよう配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者は人生の先輩であるという考えを、職員は共有しており、料理、裁縫、パッチワーク、そば打ち、団子作り、野菜作り等、教えてもらいながら一緒に行っている。日頃より一緒に過ごし、学び、支え合う関係を大切に支援を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族からの情報や日々の生活の中で本人の意見や希望を聞きながら、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向に沿った支援を行っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の意向を確認し、月1回スタッフ全員で話し合いを持ち意見交換しながら、入居者個々の特徴をとらえた個別具体的な介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 6ヶ月毎の見直しと、月1回のケアカンファレンス、モニタリングを行い、家族の希望や状態変化があった場合は随時見直ししている。 | | |

グループホームたんぽぽの里


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族と話し合い通院や買い物、送迎等本人の意向に沿った柔軟な支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 「重度化した場合の対応に係る指針」や医療連携体制について指針を明示し、入居時に説明を行い、同意書をもっている。状態変化時は再度家族、医師と話し合いを持ち、方針の共有を行いながら対応できる体制作りができています。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 管理者は個人情報の保護やプライバシーの確保に留意し、自尊心を大切にされた声かけや対応の仕方を職員に指導している。面会簿も個別に記入する方法をとっている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の健康状態を考慮し、個々のペースに合わせた支援を行っている。又、その日の気分や希望に合わせ、買い物や散歩、外食等、希望に応じて柔軟な対応ができています。 | | |

グループホームたんぽぽの里

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は入居者の希望を聞きながら作成している。菜園で一緒に収穫した野菜や近所の方から頂いた食材を利用して調理をしている。また、買い物や片付けも一緒に行っている。月1～2回の外食も楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の希望に合わせ、午前、午後の入浴支援と夕方のシャワー浴、入浴日以外の足浴を行っている。拒否の強い方には声かけの工夫や一緒に入浴する等、個別に合わせた支援を行っている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 毎朝体操後に歌ったり、買い物、掃除、調理、園芸作業、裁縫、踊りなど個別に役割や楽しみ事があり、得意分野が発揮できるよう支援している。年1回は入居者職員全員で一泊旅行もあり、カラオケも楽しんでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 毎日戸外での散歩ができるよう、歩行困難な方もリフト車や車椅子での散歩、近くの商店街での買い物も支援している。花見や公園、動物園、毎月の外食等外出する機会を多く作っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかける弊害が起こらないように、日中は、玄関、居室共に鍵はかけていない。地域住民の協力が得られるよう働きかけ、自由な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害対策マニュアルを作成し、年2回消防署と協力し避難訓練を実施している。地域の方の協力体制を強化する為、運営推進会議でも働きかけている。今後は夜間を想定した避難訓練も計画している。 | | |

グループホームたんぽぽの里

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量及び水分摂取量をチェックすると共に定期的に体重測定を行い、医師や管理栄養士と相談しながら個別に応じた栄養状態のコントロールが図られている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 3ユニット共通の芝生の中庭にはテーブルもありお茶会ができる。周囲は季節の花と野菜が植えられている。室内はソファや椅子もあり、花や入居者の手作りの作品が飾られ、季節感を取り入れ居心地よく過ごせるよう配慮されている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビや椅子、ドレッサー、扇風機や家族の写真、観葉植物等も持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。